

小中一貫教育実践校

大泉中学校・大泉小学校・大泉東小学校・大泉第六小学校

中学校区の特徴

中学校と隣接した大泉小学校では、多くの交流がもたれているが、他の2校は、距離が遠く時間調整も難しい。

目指す児童・生徒像

児童・生徒が積極的に授業に関わり、進んで学ぼうとする。

I 小中一貫教育の推進

1 目指す児童・生徒像の具現化に向けた取組

(1) 学力・体力の向上

- ・中学校と小学校の多くの教員で話し合う場は限られている。そのため、年2回行われている校區別協議会では授業を相互参観し、授業に取り組む子供たちの様子や発達段階に応じた指導など話し合い、一貫した教育に取り組む工夫などを一層深めている。

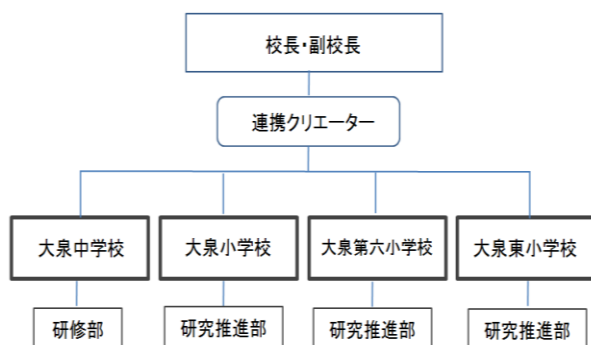
(2) 豊かな人間性・社会性の育成

- ・「挨拶運動」「海外派遣報告」と児童・生徒の交流をもち、中学校に入学してから知っている先輩や先生方がいることで安心した学校生活を過ごせるようにしている。そして、入学の段階から先生方や先輩と関わりがもてることで、積極的な学校生活への取り組みと授業参加を目指している。

(3) 安定した学校生活

- ・「生徒会による中学校紹介」では、次年度入学する児童へ中学校生活の様子を生徒会役員が話し、児童へ学校生活の共通点や相違点を認識させている。そして、児童に中学校生活への不安を減少させ、前向きな気持ちをもたせるよう取り組んでいる。

2 教育プラン推進のための推進組織



主な予定(年間計画)

6月24日	(金)	中学校区別協議会(大泉小)
11月17日	(木)	校區別協議会(大泉中)
11月18日	(金)	挨拶運動
12月1日	(木)	海外派遣報告会
12月13日	(水)	生徒会による学校紹介

II 実践校の特色ある取組

1 成果と課題

(1) 学力・体力の向上

ア、11月の校区別協議会

大泉中学校で授業を行い、小学校3校の教員が参観した。教科別の分科会では、「各教科の学習、学力向上への取組（アクティブ・ラーニングを含めて）」「課題改善カリキュラム（H26年度作成）の動向の説明」について話し合った。

成果として、教科ごとの成果や課題を出し合い、9年間を見通した児童・生徒に身に付けたい力や指導すべき内容等について共通理解を図ることができた。課題としては、児童・生徒の学力の向上には、授業時の学習意欲の向上を図るとともに、9年間を見通した共通の「学習の規律」が必要であると考えた。

(2) 豊かな人間性・社会性の育成

ア、あいさつ運動（ハイタッチ交流）

「あいさつ運動」を大泉小の担当児童と大泉中の生徒が一緒になってハイタッチであいさつする運動を実施してきた。成果として、この運動で中学校教員や生徒たちと顔見しりになる児童が多くなり、登下校時に、あいさつをする場面を見受けられるようになってきた。課題として、豊かな人間性や社会性の育成については、あいさつ運動を継続していく他にも、今後、交流できるような取り組みを考えていく必要がある。

イ、小学生のための海外派遣報告会

大泉中学校の体育館に、小学校3校の6年生が集まり、今年度の大泉中学校の海外派遣生徒による報告会を行った。海外派遣について、事前の研修やオーストラリアでの滞在を通して学んだことや感じたことなどについての報告を聞いた。成果として児童は大変関心をもって参加し、質問も多く出て、活発な交流会となった。

(3) 安定した中学校生活

ア、生徒会役員による大泉中学校紹介

大泉中学校の体育館に、小学校3校の6年生が集まり、生徒会役員による大泉中学校の学校生活を紹介した。成果として小学校生活との共通点と相違点を知ることができた。児童が中学校生活への不安を減少させ、前向きな気持ちをもたせる会となった。

III 今後の取組

今まで取り組んできた事の他に、今後取り組んでいきたいこと

- ①C4t hの掲示板を使って、小中一貫教育研究グループの全教職員が小中連携に関する情報の共有を図れるようにしていく。移動時間も考慮した上で、小学校3校と中学校とが実施可能な交流方法を設定していく。
- ②学習や生活規律について、9年間を見通した共通の内容を共有し合い、重点となる指導内容について統一化を図っていく。
- ③中学校教員による出前授業を実施し、指導した中学校教員と小学校教員とが授業内容と専門的な指導方法や児童の反応の様子などについて話し合い、お互いの授業改善に役立てるようにしていく。

